

## ずいそう

## 異文化交流

達家 養浩



コロナも落ち着き、インバウンドが戻ってきて、京都など観光地では賑わいが戻ってきています。海外と日本の違いを自身の海外赴任を思い出しながら紹介します。

もう30年以上前になりますが、唯一の海外赴任はモロッコでした。JICAの、道路保守建設機械訓練センターというプロジェクト方式の技術協力で長期専門家として2年間赴任しました。公用語はアラビア語でしたが、フランスが旧宗主国で広くフランス語が通用しています。業務もフランス語ということで、初めてフランス語と接することになりました。赴任前に国内で語学研修を受けた際の講師がフランスの方で、これが初めてフランス人との対話の始まりでした。また、英語圏ではない国に派遣ということで、フランスで語学研修が受けられることに、約2週間フランスのヴィシーという町で語学学校に通うことになりました。

初めてのフランスで、パリ経由でヴィシーまで向かうことになったのですが、フランスでは、建物の階の数え方が日本と違い、日本で1階はフランスでは0階と数えるので、3階といわれると日本の4階になることや、地下鉄には改札がありますが、国鉄の駅には改札がなく代わりに自分で検札をしなくてはならないことなど日本との違いを感じつつ下宿先のヴィシーに到着、しかし海外あるあるの通り、下宿先の主人が来たのは約1時間遅れ、フランスでもこれかと思いましたが、気を取り直して愛想笑い。下宿先の主人がワイン好きで、しかも酒を飲むのが私と2人だけだったので、每晚ワインを頂けました。好きなワインを飲んでいいよと言われ、倉庫へ行くと2種類あったのですが、それぞれ2ダース位積んであったので、これがハウスワインというのかと変に納得していました。レストランでミネラルウォーターを頼むとき「ガス無し」と頼まないと炭酸水が普通に出てきました。市内で取れるミネラルウォーターに炭酸ガスが含まれているそうです。公園の水飲み場では蛇口をひねると炭酸水が出てきます。レストランで出てくる炭酸水より遥かに弱い炭酸水ですが驚きました。

下宿先では、私たち以外に若いロシア人と中国人夫婦が語学学校に通っていました。

中国人のご主人の方が私と同じで語学が苦手らしく、なかなか会話が進まなかったのですが、同じ漢字

圏ということで筆談を試してみるとこれがうまくいった、楽しく趣味の話を繰り返していました。

語学研修も終わり、モロッコに到着。まずは不動産屋と家探し、決まってから電気、ガス、水道、電話などの手続きを始めるのですが、日本では1日ですべて手続きが終わるところ、1日1件が精いっぱい。何をやるにもとにかく時間がかかることに、最初はイライラしていましたが、いつの間にか慣れていくことに。1年後一時帰国した際には日本のスピードについていくのに必死になっていました。モロッコの人は基本的に優しく、子供を大切にしてくれます。日本人が珍しかったのか、どこに行っても子供はヒーロー扱い、ありがたかったです。

また、一時帰国の際に訪れたドイツでは、フランクフルト空港からレンタカーを借りてドイツ国内を回ることになりました。空港内にあるレンタカー会社のカウンターで契約をすると鍵を渡され、駐車場に止めてあるのでそのまま乗って下さいとのこと、駐車場からアウトバーンに直接アクセスできるので非常に合理的だと思いました。少し走り、ホテルを探し泊まることに。小さなホテルを見つけ空いているか尋ねるため中に入ると、年配の女性が2人で対応してくれましたが、単語を並べただけの英語とフランス語では殆ど通じません。ドイツ語対日本語の身振り手振りでしたが1室確保できました。金額だけは紙に書いてもらいました。その後、ドイツでは言葉の壁にぶつかりますが、ある日道を聞くために声をかけた人がたまたま学生でフランス語を習い始めたところだそうで簡単なフランス語しかできないと言っていたのですが、こちらも同様なので逆にわかりやすかったです。最近は翻訳機などがあるので困らないかもしれませんが、英語圏以外ではとりあえず学生らしい人に聞くのがおすすめです。モロッコやヨーロッパでは、日本の制度や習慣と違うことが多く、戸惑いながらも楽しかった思い出です。

訪日外国人旅行者も自国の制度と違うことが多いと思うので、困っている時や、何か聞かれることがあれば出来るだけ丁寧に接してあげようと思っています。

—たつけ やすひろ

(一財) 日本建設情報総合センター 近畿地方センター長